

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2024 Phase II /2025」

テーマ JENESYS2024 Phase II 「防災」
JENESYS2025 「環境・エネルギー」

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2024 Phase II ・ 2025」の一環として、3月18日から3月24日まで、日本の大学生・大学院生10名が「防災」・「環境・エネルギー」をテーマに台北市を起点に各テーマに沿った視察研修や、大学交流を行いました。また、1月末に日本を訪れた訪日団の大学生13名と日台合同合宿を実施し、台湾学生がホストとして2つのテーマに分かれて日台の協力の可能性についてワークショップやプレゼンテーションを実施や、バーベキューなどの屋外活動を通して親交を深めました。

【開催概要】

実施日：2026年3月18日（水）～3月24日（火）

参加者：大学生・大学院生10名／スタッフ2名

訪問箇所：

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所／国立台湾科技大学／国立台湾大学
／国家原子能科技研究院／求心公益科技股份有限公司／寶晶能源股份有限公司／寧夏夜市／大溪老街/圓山大飯店西トンネル/財団法人台湾設計研究院

2. 日程

日程	内容
3/18（水）	台北到着
3/19（木）	【表敬訪問】公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所 【学校交流】国立台湾科技大学 （防災：機械学科/環境・エネルギー：材料学科） 【文化訪問】台湾大学公史館 【同窓会】
3/20（金）	【訪問】国家原子能科技研究院 【企業訪問】（防災）求心公益科技股份有限公司 （環境・エネルギー）寶晶能源股份有限公司 【文化体験】寧夏夜市
3/21（土）	**日台合宿** 【文化訪問】大溪老街 【チームビルディング】山訓アスレチック体験 【交流会】BBQ

2/2 (日)	**日台合宿** 【日台交流テーマ別交流】 【台湾文化訪問】圓山大飯店西トンネル
2/3 (月)	【訪問】財団法人台湾設計研究院 【成果報告会】公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所
2/4 (火)	台北出発

3. プログラム記録写真

	
<p>3月19日【表敬訪問】 日本台湾交流協会台北事務所</p>	<p>3月19日【大学交流】 国立台湾科技大学</p>
	
<p>3月19日【大学交流】 国立台湾科技大学</p>	<p>3月19日【文化訪問】 台湾大学校史館</p>
	
<p>3月19日【同窓会】</p>	<p>3月19日【同窓会】</p>



3月20日【訪問】
国家原子能科技研究院



3月20日【企業訪問】
求心公益科技股份有限公司



3月20日【企業訪問】
寶晶能源股份有限公司



3月21日【歴史建築物視察】
大溪老街



3月21日【日台合宿】
山訓アスレチック体験



3月21日【日台合宿】
交流会

	
<p>3月22日【日台合宿】 ワークショップ・プレゼン</p>	<p>3月22日【文化体験】 圓山大飯店西トンネル</p>
	
<p>3月23日【訪問】 財団法人台湾設計研究院</p>	<p>3月23日【成果報告会】 日本台湾交流協会</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆学生

この訪問を通して、台湾の親日的な姿勢を肌で実感し、日台関係について考える良い機会となりました。また、本プログラムがなければ出会うことがなかったであろう台湾の方々との出会い、言葉を交わすことができたことは、一生の思い出になると思います。

私はこの3月に大学を卒業し、社会人になりますが、今後のキャリアにおいては、中長期的に民間レベルでの日台企業間の協力や、日本企業の台湾進出に貢献できるようなプロジェクトに参加してみたいと考えています。

20代前半という、自身の将来のキャリアについて考え始める時期に、このような貴重な機会をいただけたことに、心より感謝申し上げます。今回の経験を生かし、今後の日台関係のさらなる発展や対日理解の促進に寄与できるよう、国に貢献していきたいと考えています。

◆学生

今回の派遣を通じて、台湾に対する理解の不足は知識量だけでなく、学ぶ機会の不足にも起因すると感じました。そしてそれは、環境・エネルギーの課題にも通じています。

技術や制度を知るだけでなく、それが社会でどう機能し、人々の行動や価値観とどう結びつくのかを学ぶことが、持続可能な社会の実現に繋がるのではないのでしょうか。また私は、この JENESYS のプログラムを経て、得た理解を行動に繋げることによって、初めて今回の訪問が意味を成すと考えています。

「環境・エネルギー」の面では、小さいことではありますが、まず日常の選択、例えばマイボトルやウォーターサーバーの使用などを見直し、交流面では、台湾の知人と、日常生活に限らず、防災や環境・エネルギー、社会制度に至るまで多様なテーマについて対話を重ねるなど、情報発信を通じて台湾で得た視点や気づきを共有して、相互理解の裾野を広げていこうと考えております。

こうした積み重ねが、将来日本と台湾の架け橋としてつながっていくと確信しています。相互理解は、制度やスローガンによって達成されるものではなく、個々の理解と行動の積み重ねによって深まるものです。この一週間の経験は、私にとってその出発点となりました。

◆学生

ミクロな要素技術の研究を行っている私にとって、台湾でのダイナミックな社会実装の現場（巨大メガソーラーや徹底されたエコ施策）を目の当たりにしたことは、自身の研究の社会的な位置づけやグランドデザインを描く上で大きな転換点となりました。このような素晴らしい成長の機会を提供していただいた関係者の皆様、そして温かく迎えてくれた台湾の皆様、心より感謝申し上げます。

今後も日台の連携に貢献できるよう邁進していきたいと思っております。

5. 受け入れ側 対応（抜粋）

◆公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所表敬訪問

台湾経済についてのブリーフ

◆大学交流 国立台湾科技大学

昼食交流、機械学科（防災チーム）、材料学科（環境・エネルギーチーム）に分かれて
テーマ別講座、実験室見学

◆国家原子能科技研究院

テーマ別に分かれて講義受講、台湾の放射線関連に対する取り組みのレクチャー

◆求心公益科技（防災チーム）

台湾の工業技術研究院から派生した企業で、地理情報システム（GIS）とAIを活用し防災・減災、公共安全分野のテクノロジーを提供。

災害の予防（平時）・即時対応（災害時）・分析と復旧（災害後までをカバーする）取り組みを講義、シミュレーションを行い、質疑応答

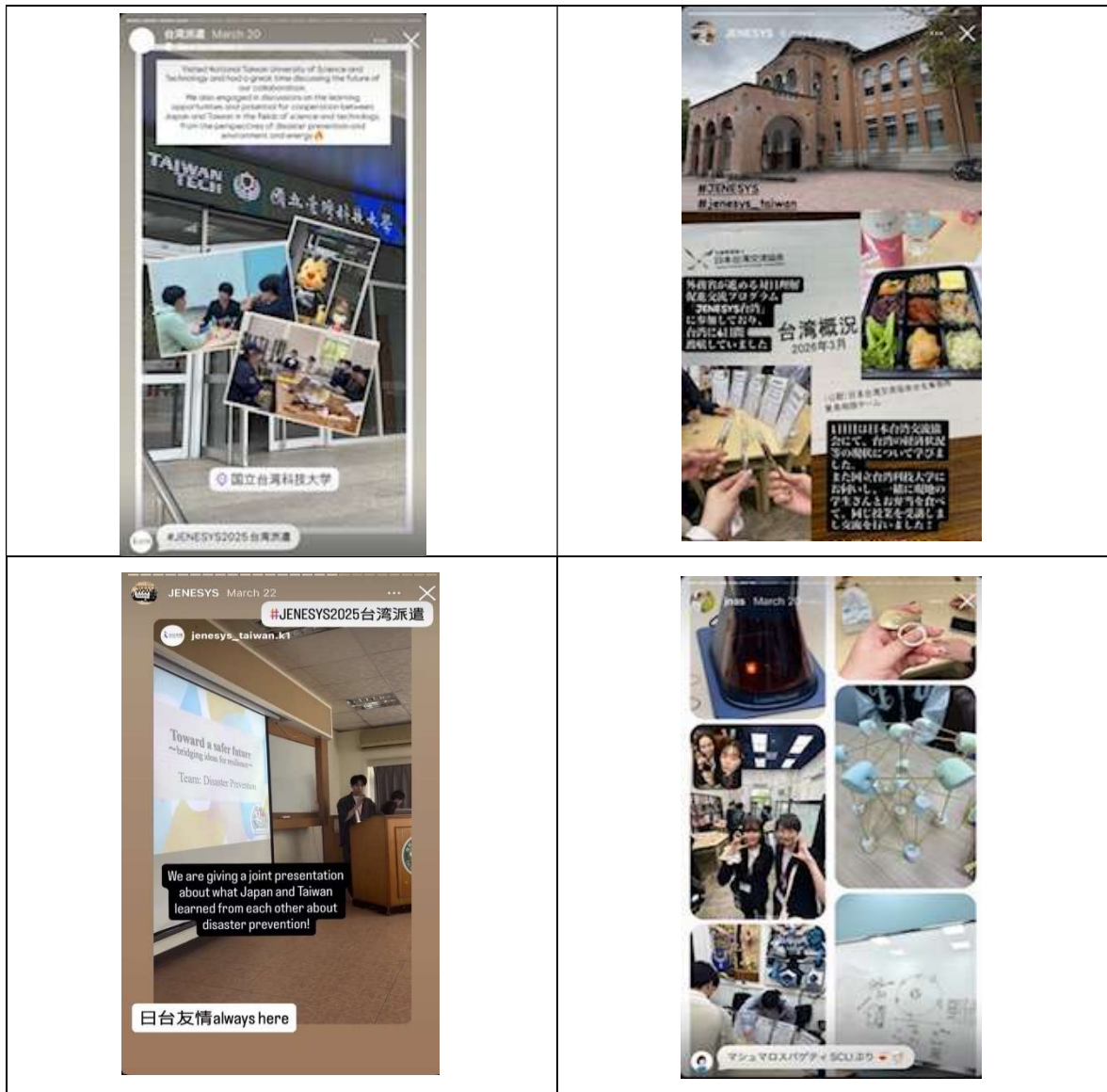
◆寶晶能源股份有限公司（環境・エネルギーチーム）

再生可能エネルギー専門企業で台湾のエネルギー転換（脱炭素・再エネ拡大）を背景に成長している企業。同社のエネルギー転換に関する講義、展示スペースの見学後、質疑応答

◆財団法人台湾設計院

デザインを「産業競争力」「公共政策」「社会課題解決」を支える国家戦略の中核と位置づけられているは、台湾政府（管轄：經濟部）に属する国家級のデザイン研究・推進機関。設計研究院に関する講義受講後、質疑応答、オフィス見学。

6. 参加者・企業の対外発信



企業



7. 参加者のアクションプラン（抜粋）

- ①個人の研究活動に直結させた行動を計画しています。
今回構築した台湾の大学や研究機関とのネットワークを活かし、将来的に台湾で開催される国際学会への積極的な参加や、日台の学術機関を通じた共同研究の枠組み構築に向けて指導教員と相談しながら動いていく予定です。
- ②日本の中等教育では台湾について扱っておらず、中国や欧米諸国と同様に、台湾を学校教育の地理的分野で学習する機会を設ける機会を創出したいです。
- ③日本の防災行政に携わり、制度と技術の両面から社会を支えていきたいです。

実施団体：株式会社 JTB